

令和 2 年 9 月 3 日

関 係 各 位

広島労働局労働基準部長

広島局版「エイジフレンドリーガイドライン」のリーフレットの送付について

労働基準行政の運営につきましては、平素より格別の御理解、御協力をいただき御礼申し上げます。

近年、労働災害による休業 4 日以上の死傷者数のうち、60 歳以上の労働者の占める割合が増加傾向にあり、全国及び広島県においても、それぞれ全体の 1/4 を超えております。

こうした中、令和 2 年 3 月に厚生労働省において、「高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」（通称：エイジフレンドリーガイドライン）を策定し、高年齢者にかかる労働災害防止のために事業者及び労働者に求められる事項等を取りまとめたところです。これを受け、今般、別添のとおり、当該ガイドラインの概要・当局管内の労働災害発生状況・各種支援制度等をまとめたリーフレットを作成いたしました。

つきましては、貴団体におかれても、本リーフレットを活用し、貴団体傘下会員等への周知を図っていただき、高年齢労働者の労働災害を防止するため各事業場の実情に応じた多様な取組が促進されますよう御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、当局ホームページ

<https://jsite.mhlw.go.jp/hiroshima-roudoukyoku/content/contents/000698110.pdf>

に本リーフレットの PDF データを掲載いたしましたので、併せてご活用ください（別紙に、ダウンロード方法を記載しています）。



働く高齢者の特性に配慮した



エイジフレンドリーな職場を目指しましょう

厚生労働省では、令和2年3月に

「高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」 (エイジフレンドリーガイドライン)



全文はこちら

を策定しました。

このガイドラインは、高年齢者を現に使用している事業場やこれから使用する予定の事業場で、事業者と労働者に求められる取組を具体的に示したものです。

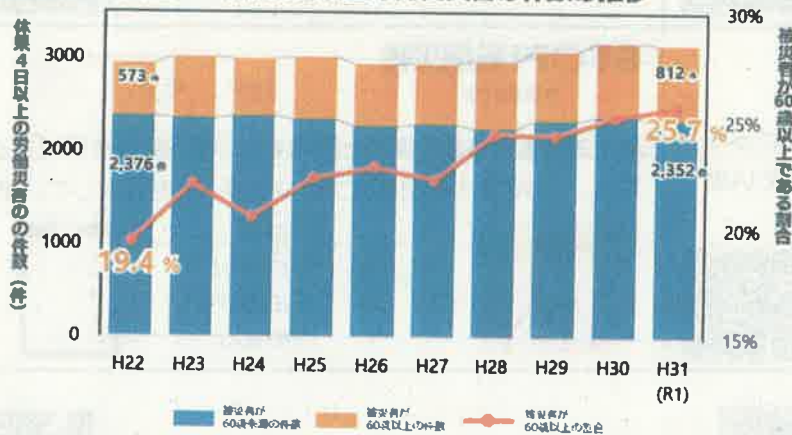
広島県内において、過去10年で、休業4日以上[※]の労働災害の件数はほぼ横ばいですが、その被災者の年齢に着目すると、60歳以上の労働者が占める割合は約26%（令和元年）で増加傾向にあります。

また、60歳以上の労働者の労働災害は転倒災害が約4割を占めており、身体機能の低下等により、休業も長期化しやすい傾向にあります。

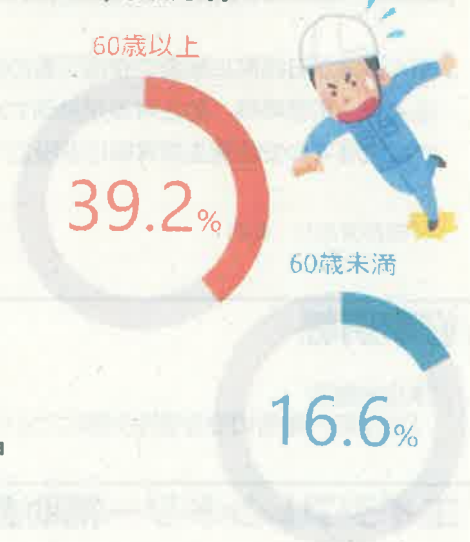
以上のことから、高年齢者の労働災害防止、特に転倒災害防止を図るためにも、国や関係団体等による支援（裏面参照）も活用して、

実施可能な労働災害防止対策に積極的に取り組むように努めてください。

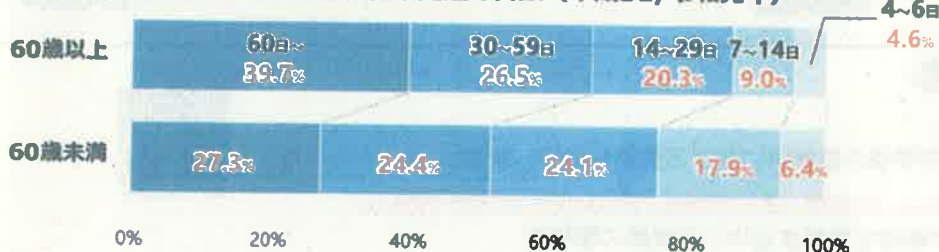
広島県内で発生した休業4日以上[※]の労働災害の件数の推移



広島県内で発生した休業4日以上[※]の労働災害のうち、転倒が占める割合（平成31/令和元年）








広島県内で発生した労働災害の休業見込み日数（平成31/令和元年）












出典：労働者死傷病報告

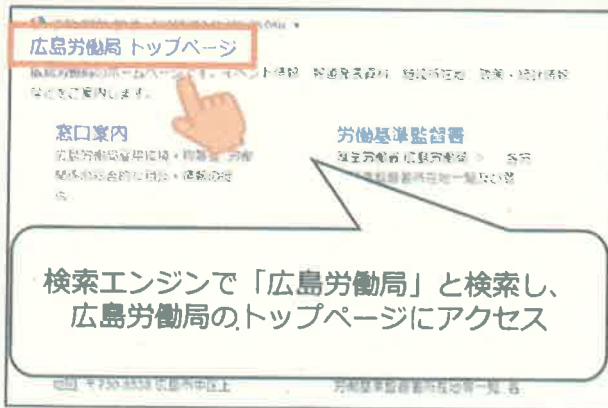
ガイドライン概要

事業者求められること	労働者に求められること
<p>1 安全衛生管理体制の確立</p> 	<p>個々の労働者が自らの身体機能の変化が労働災害リスクにつながり得ることを理解し、労使の協力の下、以下の取組等を実情に応じて進めてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自らの身体機能や健康状況を客観的に把握し、健康や体力の維持管理に努めます。 <input type="checkbox"/> 法定の定期健康診断を必ず受けるとともに、法定の健康診断の対象とならない場合には、地域保健や保険者が行う特定健康診査等を受けるようにします。 <input type="checkbox"/> 体力チェック等に参加し、自身の体力の水準を確認します。 <input type="checkbox"/> 日ごろからストレッチや軽いスクワット運動等を取り入れ、基礎的体力の維持に取り組みます。 <input type="checkbox"/> 適正体重の維持、栄養バランスの良い食事等、食習慣や食行動の改善に取り組みます。
<p>2 職場環境の改善</p> 	
<p>3 高年齢労働者の健康や体力の状況の把握</p> 	
<p>4 高年齢労働者の健康や体力の状況に応じた対応</p> 	
<p>5 安全衛生教育</p> 	

各種支援制度

<h3>エイジアクション100</h3> <p>高年齢労働者の安全と健康確保のための100の取組（エイジアクション）を盛り込んだチェックリストを活用して、職場の課題を洗い出し、改善に向けての取組を進めるための「職場改善ツール」です。</p> <p>エイジアクション100 厚生労働省</p> 	<h3>転倒等リスク評価セルフチェック票</h3> <p>転倒・墜落・転落等の災害リスクを労働者自ら確認し、労働災害防止のための気付きの援助として活用することを目的としたセルフチェックです。身体機能把握と質問票があります。</p> <p>転倒等リスク評価セルフチェック票</p> 									
<h3>転倒・腰痛防止視聴覚教材</h3> <p>働く皆様が日常的に転倒や腰痛災害の防止を心がけられるよう、災害事例、防止対策が動画でまとめられています。職場での安全衛生教育等にお役立てください。</p> <p>視聴覚教材 転倒</p> 	<h3>STOP! 転倒災害プロジェクト</h3> <p>厚生労働省と労働災害防止団体では、転倒災害を撲滅するため、「STOP! 転倒災害プロジェクト」を推進しています。</p> <p>転倒危険!</p> <p>SEIRI SEITON SEIKETSU SEISOU</p> 									
<h3>好事例等</h3> <p>厚生労働省 「高年齢労働者の安全衛生対策について」</p> 	<p>独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構（JEED）</p> 									
<h3>エイジフレンドリー補助金</h3> <p>高齢者が安心して安全に働くための職場環境の整備等に要する費用を補助します。</p> <p><u>※事業規模、高年齢労働者の雇用状況等を審査の上、交付決定（全ての申請者に交付されるものではありません）</u></p> <table border="0"> <tr> <td>① 対象者</td> <td>60歳以上の高年齢労働者を雇用する中小企業等の事業者</td> <td rowspan="4" style="text-align: right; vertical-align: middle;"> エイジフレンドリー補助金 jashcon  </td> </tr> <tr> <td>② 補助額</td> <td>補助率2分の1（上限100万円）</td> </tr> <tr> <td>③ 対象経費</td> <td>高年齢労働者の労働災害防止のための措置に係る経費</td> </tr> <tr> <td>④ 期間</td> <td>令和2年6月12日～令和2年10月末日</td> </tr> </table>		① 対象者	60歳以上の高年齢労働者を雇用する中小企業等の事業者	エイジフレンドリー補助金 jashcon 	② 補助額	補助率2分の1（上限100万円）	③ 対象経費	高年齢労働者の労働災害防止のための措置に係る経費	④ 期間	令和2年6月12日～令和2年10月末日
① 対象者	60歳以上の高年齢労働者を雇用する中小企業等の事業者	エイジフレンドリー補助金 jashcon 								
② 補助額	補助率2分の1（上限100万円）									
③ 対象経費	高年齢労働者の労働災害防止のための措置に係る経費									
④ 期間	令和2年6月12日～令和2年10月末日									

広島労働局版エイジフレンドリーリーフレットのPDFデータダウンロード方法



広島労働局 トップページ

検索エンジンで「広島労働局」と検索し、広島労働局のトップページにアクセス



携帯電話・スマートフォンからはコチラ



事例・統計情報

トップページ上部の「事例・統計情報」をクリックし、続いて「パンフレット・リーフレット」をクリック



働く高齢者の特性に配慮したエイジフレンドリーな職場を目指しましょう

「働く高齢者の特性に配慮したエイジフレンドリーな職場を目指しましょう」をクリックすると、PDFのダウンロードが始まります。



安全衛生関係

参考



本省版パンフレットはコチラ



セミナーの案内はコチラ





ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省委託事業
Ministry of Health, Labour and Welfare

働く高齢者の安全と健康確保のためのセミナー

働く高齢者

のための

安全衛生管理セミナー



労働者の高齢化が一層進むものと予測されています。労働災害の60歳以上の方の占める割合が増加傾向にあり、一般健康診断の有所見率も50%を超えています。このため、厚生労働省では今年度、新たに作成した「高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン(エイジフレンドリーガイドライン)」の周知を図ることとしました。

**受講料
無料!**

※本講習では新型コロナ感染防止対策として三密回避のため定員数を削減して実施しております。

受講対象者 高年齢労働者を雇用する、または雇用を予定している事業主や安全衛生担当者等

【カリキュラム】

最近の安全衛生行政の動向について
広島労働局 健康安全課

1.労働災害防止対策の必要性について

- ・労働災害発生状況と対策
- ・企業経営における高年齢労働者の労働災害防止対策の必要性

2.安全で安心な職場を作るための知識

- ・高年齢労働者の労働災害防止のためのガイドラインにおける取組事例等の解説
- ・今日から取り組む具体的な対策

3.先進的な取組事例等の紹介

- ・安全衛生に係る先進的な取組等を実施している企業(全国・地域)における事例の紹介

4.質疑応答

※都合により変更になる場合があります。

◆研修終了後に、修了証を交付します。 ◆テキストは当日無料で配布いたします。

※詳細なカリキュラムは、裏面「お申込み」欄に記載されている特設HPをご覧ください。

お申込先

(株)労働調査会 働く高齢者セミナー事業部
〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-4-5 TEL.03-3915-7221 FAX.03--3915-7033
E-Mail kounenre2@chosakai.co.jp <https://age-friendly.chosakai.ne.jp/>

QRコード



広島開催【定員:50名】

講習時間:13:30~16:30

開催日 10月28日(水)

会場 広島県情報プラザ
第1・第2研修室
広島市中区千田町3-7-47



「働く高齢者のための安全衛生管理セミナー」担当行

※必要事項をご記入の上、**FAX 03-3915-7033** まで、お送りください。

「働く高齢者のための安全衛生管理セミナー」受講申込書

〔広島開催〕

開催日 **10月28日(水) 13:30~16:30**

定員: **50名**

会場: **広島県情報プラザ 第1・第2研修室**
広島市中区千田町3-7-47

■複数名でお申し込みの場合は、お手数ですがコピーしてご使用ください。 申込日 令和2年 月 日

受講希望者 氏名 ※	フリガナ		生年月日 ※	西暦 年 月 日
	(姓)	(名)		
勤務先住所 ※	〒 _____			
会社名 ※			役職	
電話番号 ※	()		FAX	()
メールアドレス ※	_____ @ _____			

*記載された内容については、厳重に管理し、内容確認・本事業に関するお問合せ等の目的のみで使用します。
※印項目は、必須項目です、必ずご記入下さい。また、満足アンケートのご記入をお願いします。

◎キャンセルは原則として一週間前までにご連絡ください。(連絡先 03-3915-7221)

お申込方法 ※下記、①若しくは②でお申込みください。

①本状、受講申込書に必要事項をご記入いただき、FAXでお申込みください。→**FAX 03-3915-7033**
②専用Webサイトのお申込フォームから、必要事項を入力の上送信してください。

お申込の流れ

セミナーご希望の方:①、②でお申込後、約1週間後に受講票(はがき)をご郵送いたしますので講習当日にご持参いただき、受付でお渡しください。

※ 受講日当日は、新型コロナ感染予防対策として、マスクを着用してください。

お問合せ先

(株) 労働調査会 働く高齢者セミナー事業部
〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-4-5 TEL 03-3915-7221
E-Mail kounenre2@chosakai.co.jp FAX 03-3915-7033
<https://age-friendly.chosakai.ne.jp/>

QRコード



エイジフレンドリーガイドライン

(高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン)

厚生労働省では、令和2年3月に「高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」(エイジフレンドリーガイドライン。以下「ガイドライン」)を策定しました。

働く高齢者の特性に配慮したエイジフレンドリーな職場を目指しましょう。

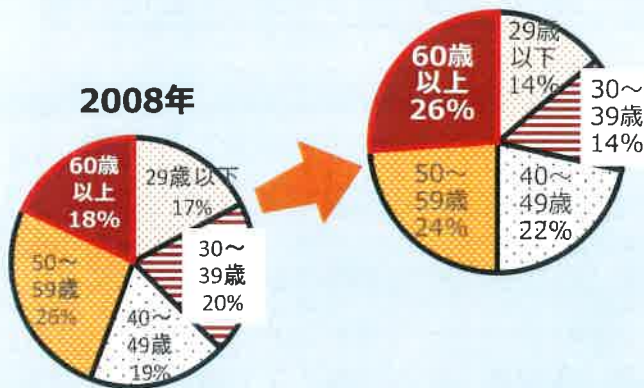


働く高齢者が増えています。60歳以上の雇用者数は過去10年間で1.5倍に増加。特に商業や保健衛生業をはじめとする第三次産業で増加しています。

こうした中、労働災害による死傷者数では60歳以上の労働者が占める割合は26% (2018年) で増加傾向にあります。労働災害発生率は、若年層に比べ高齢層で相対的に高くなり、中でも、転倒災害、墜落・転落災害の発生率が若年層に比べ高く、女性で顕著です。

<年齢別死傷災害発生状況 (休業4日以上) >

2018年

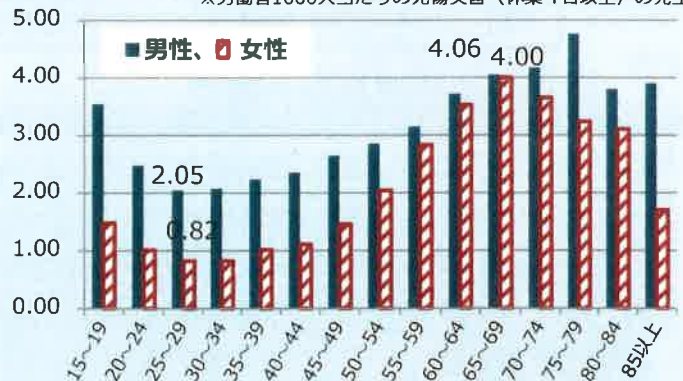


高齢者は身体機能が低下すること等により、若年層に比べ労働災害の発生率が高く、休業も長期化しやすいことが分かっています。

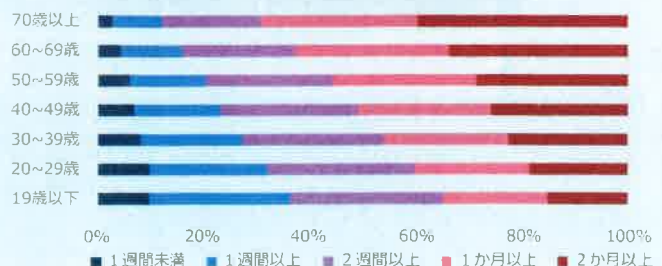
体力に自信がない人や仕事に慣れていない人を含めすべての働く人の労働災害防止を図るためにも、職場環境改善の取組が重要です。

<年齢別・男女別の労働災害発生率 2018年>

※労働者1000人当たりの死傷災害 (休業4日以上) の発生件数



<年齢別の休業見込み期間の長さ>



出典：労働力調査、労働者死傷病報告

このガイドラインは、雇用される高齢者を対象としたものですが、請負契約により高齢者を就業させることのある事業者においても、請負契約により就業する高齢者に対し、このガイドラインを参考として取組を行ってください。

ガイドラインの概要

このガイドラインは、高齢者を現に使用している事業場やこれから使用する予定の事業場で、事業者と労働者に求められる取組を具体的に示したものです。全文はこちら→

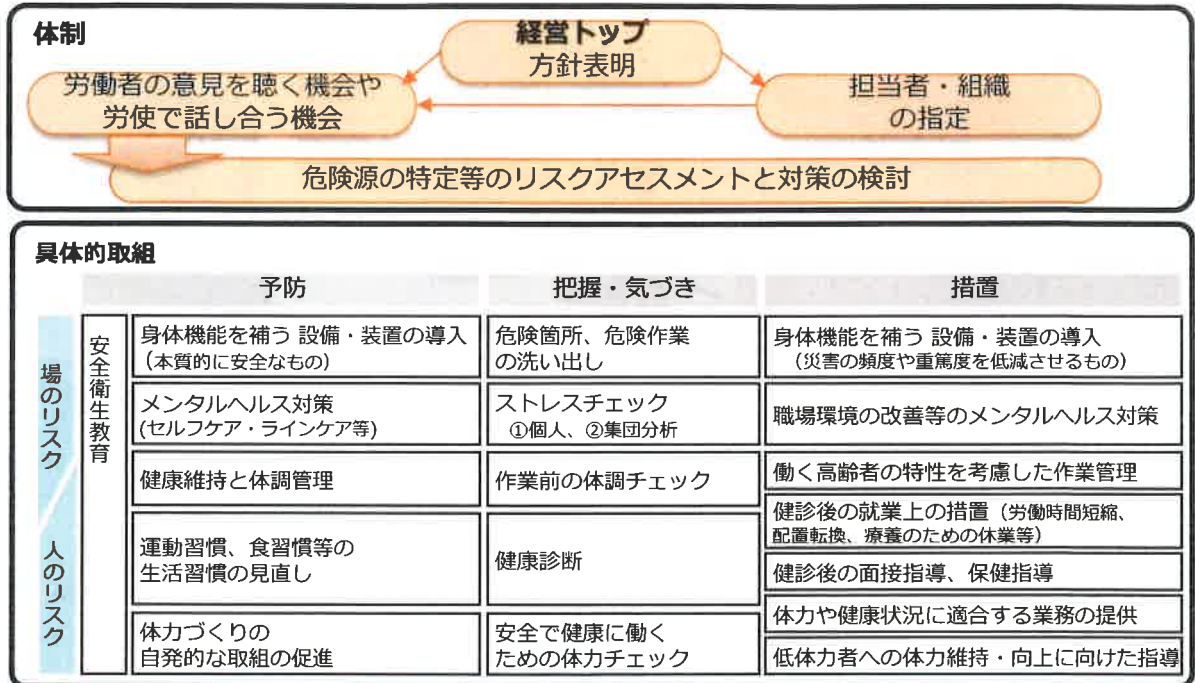
令和2年3月16日付け基安発0316第1号
「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドラインの策定について」



事業者求められる事項

事業者は、以下の1～5について、高齢労働者の就労状況や業務の内容等の実情に応じ、国や関係団体等による支援も活用して、**実施可能な労働災害防止対策に積極的に取り組むように努めてください。**

事業場における安全衛生管理の基本的体制と具体的取組の体系を図解すると次のようになります。



1 安全衛生管理体制の確立

ア 経営トップによる方針表明と体制整備

- ・企業の経営トップが高齢者労働災害防止対策に取り組む方針を表明します
- ・対策の担当者や組織を指定して体制を明確化します
- ・対策について労働者の意見を聴く機会や、労使で話し合う機会を設けます



※考慮事項※

- ・高齢労働者が、職場で気付いた労働安全衛生に関するリスクや働く上で負担に感じていること、自身の不調等を相談できるよう、社内に相談窓口を設置したり、孤立することなくチームに溶け込んで何でも話せる風通しの良い職場風土づくりが効果的です

イ 危険源の特定等のリスクアセスメントの実施

- ・高齢労働者の身体機能の低下等による労働災害発生リスクについて、災害事例やヒヤリハット事例から洗い出し、対策の優先順位を検討します
- ・リスクアセスメントの結果を踏まえ、2以降の具体的事項を参考に取組事項を決定します

※考慮事項※

- ・職場改善ツール「エイジアクション100」のチェックリストの活用も有効です→
- ・必要に応じフレイルやロコモティブシンドロームについても考慮します

※フレイル：加齢とともに、筋力や認知機能等の心身の活力が低下し、生活機能障害や要介護状態等の危険性が高くなった状態

※ロコモティブシンドローム：年齢とともに骨や関節、筋肉等運動器の衰えが原因で「立つ」、「歩く」といった機能（移動機能）が低下している状態

- ・社会福祉施設、飲食店等での家庭生活と同様の作業にもリスクが潜んでいます



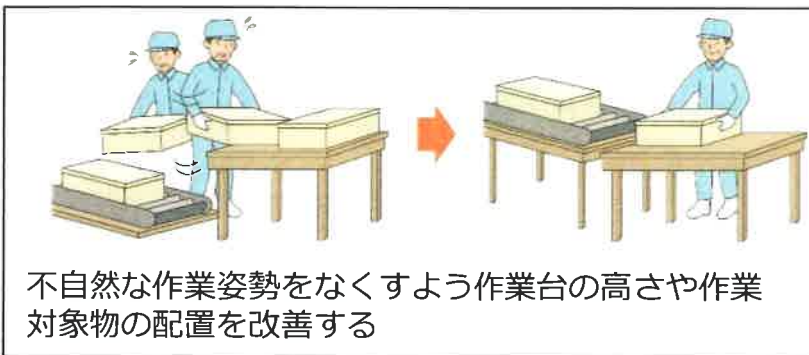
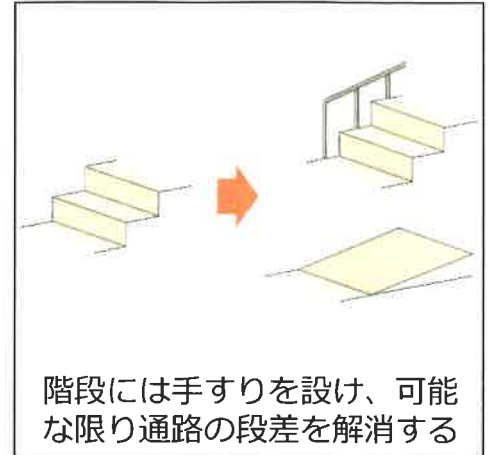
ガイドラインの概要

2 職場環境の改善

(1) 身体機能の低下を補う設備・装置の導入（主としてハード面の対策）

- ・高齢者でも安全に働けることができるよう、施設、設備、装置等の改善を検討し、必要な対策を講じます
- ・以下の例を参考に、事業場の実情に応じた優先順位をつけて改善に取り組みます

⇩対策の例⇩



その他の例

- ・床や通路の滑りやすい箇所に防滑素材（床材や階段用シート）を採用する
- ・熱中症の初期症状を把握できるウェアラブルデバイス等のIoT機器を利用する
- ・パワーアシストスーツ等を導入する
- ・パソコンを用いた情報機器作業では、照明、文字サイズの調整、必要な眼鏡の使用等により作業姿勢を確保する 等

ガイドラインの概要

(2) 高年齢労働者の特性を考慮した作業管理（主としてソフト面の対策）

- ・ 敏捷性や持久性、筋力の低下等の高年齢労働者の特性を考慮して、作業内容等の見直しを検討し、実施します
- ・ 以下の例を参考に、事業場の実情に応じた優先順位をつけて改善に取り組みます

▼対策の例▼

<共通的な事項>

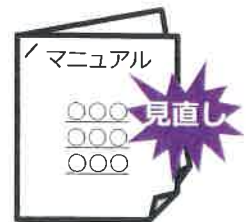
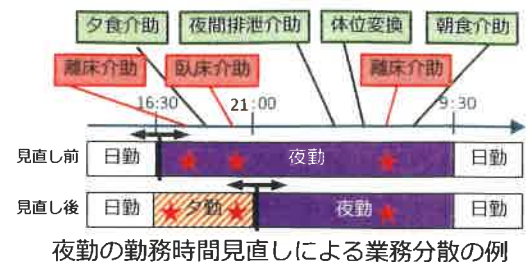
- ・ 事業場の状況に応じて、勤務形態や勤務時間を工夫することで高年齢労働者が就労しやすくします（短時間勤務、隔日勤務、交替制勤務等）
- ・ ゆとりのある作業スピード、無理のない作業姿勢等に配慮した作業マニュアルを策定します
- ・ 注意力や集中力を必要とする作業について作業時間を考慮します
- ・ 身体的な負担の大きな作業では、定期的な休憩の導入や作業休止時間の運用を図ります

<暑熱な環境への対応>

- ・ 一般に年齢とともに暑い環境に対処しにくくなるので、意識的な水分補給を推奨します
- ・ 始業時の体調確認を行い、体調不良時に速やかに申し出るよう日常的に指導します

<情報機器作業への対応>

- ・ データ入力作業等相当程度拘束性がある作業では、個々の労働者の特性に配慮した無理のない業務量とします



3 高年齢労働者の健康や体力の状況の把握

(1) 健康状況の把握

- ・ 労働安全衛生法で定める雇入時および定期の健康診断を確実に実施します
- ・ その他、以下に掲げる例を参考に、高年齢労働者が自らの健康状況を把握できるような取組を実施するよう努めます

▼取組の例▼

- ・ 労働安全衛生法で定める健康診断の対象にならない者が、地域の健康診断等（特定健康診査等）の受診を希望する場合、勤務時間の変更や休暇の取得について柔軟に対応します
- ・ 労働安全衛生法で定める健康診断の対象にならない者に対して、事業場の実情に応じて、健康診断を実施するよう努めます



ガイドラインの概要

(2) 体力の状況の把握

- ・ 高齢労働者の労働災害を防止する観点から、事業者、高齢労働者双方が体力の状況を客観的に把握し、事業者はその体力にあった作業に従事させるとともに、高齢労働者が自らの身体機能の維持向上に取り組めるよう、主に高齢労働者を対象とした体力チェックを継続的に行うよう努めます
- ・ 体力チェックの対象となる労働者から理解が得られるよう、わかりやすく丁寧に体力チェックの目的を説明するとともに、事業場における方針を示し、運用の途中で適宜その方針を見直します

▼対策の例▼

- ・ 加齢による心身の衰えのチェック項目（フレイルチェック）等を導入します
- ・ 厚生労働省作成の「転倒等リスク評価セルフチェック票」等を活用します
- ・ 事業場の働き方や作業ルールにあわせた体力チェックを実施します。この場合、安全作業に必要な体力について定量的に測定する手法と評価基準は、安全衛生委員会等の審議を踏まえてルール化するようにします

✿考慮事項✿

- ・ 体力チェックの評価基準を設ける場合は、合理的な水準に設定し、安全に行うために必要な体力の水準に満たない労働者がいる場合は、その労働者の体力でも安全に作業できるよう職場環境の改善に取り組むとともに、労働者も必要な体力の維持向上の取組が必要です。

転倒等リスク評価セルフチェック票

I 身体機能計測結果

① 2ステップテスト（歩行能力・筋力）
あなたの結果は cm、 cm(身長) =
下の評価表に当てはめて → **評価**

評価	1	2	3	4	5
結果	~1.24	1.25	1.39	1.47	1.56~
身長	~1.38	~1.46	~1.65		

② 座位ステップテスト（敏捷性）
あなたの結果は 回 / 20秒
下の評価表に当てはめて → **評価**

評価	1	2	3	4	5
(回)	~24	25	29	44	48~
	~28	~43	~47		

③ フังก์ショナルリーチ（動的バランス）
あなたの結果は cm
下の評価表に当てはめて → **評価**

評価	1	2	3	4	5
(cm)	~19	20	30	35	40~
	~29	~35	~39		

④ 閉眼片足立ち（静的バランス）
あなたの結果は 秒
下の評価表に当てはめて → **評価**


評価	1	2	3	4	5
(秒)	~7	7.1	17.1	55.1	90.1~
	~17	~55	~90		

⑤ 閉眼片足立ち（静的バランス）
あなたの結果は 秒
下の評価表に当てはめて → **評価**

評価	1	2	3	4	5
(秒)	~15	15.1	30.1	84.1	120.1~
	~30	~84	~120		

身体機能計測の評価数字も
このレーダーチャートに数字で記入

体力チェックの一例 詳しい内容は→



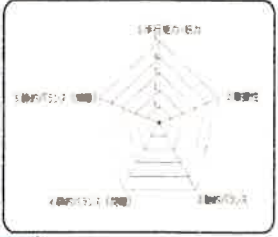
項目内容	あなたの結果(%)	合格	評価	評語
1. 1.2cm以内 正歩調で歩行可能な距離が十分に歩けますか?				歩行能力
2. 10秒以内で10歩以上歩けますか?				敏捷性
3. 2歩調の歩調で行ける距離が通常の歩調より長いですか?				動的バランス
4. 歩行中に、片足を足裏で踏むことが十分に出来ますか?				静的バランス
5. 歩行中に片足で立ち下りることが出来ますか?				静的バランス
6. 一歩調で歩いている上にも、通常の歩調より速く歩ける距離が通常の歩調より長いですか?				敏捷性
7. 閉眼で片足で立ち下りることが出来ますか?				静的バランス
8. 電車に乗って片足を踏むことが十分に出来ますか?				静的バランス
9. 閉眼で片足で立ち下りることが出来ますか?				静的バランス

①～⑤の評価結果を記入し、⑥～⑨の項目に数字を記入

項目	評価
歩行能力	2~3
敏捷性	4~5
動的バランス	2~7
静的バランス	2~9
総合	10

レーダーチャート

評価結果を転記し記入してください
(1)の身体機能計測結果も数字で記入



(3) 健康や体力の状況に関する情報の取扱い

健康情報等を取り扱う際には、「労働者の心身の状態に関する情報の適正な取扱いのために事業者が講ずべき措置に関する指針」を踏まえた対応が必要です。

また、労働者の体力の状況の把握に当たっては、個々の労働者に対する不利益な取扱いを防ぐため、労働者自身の同意の取得方法や情報の取扱い方法等の事業場内手続について安全衛生委員会等の場を活用して定める必要があります。

エイジフレンドリーガイドラインの概要

4 高齢労働者の健康や体力の状況に応じた対応

- (1) 個々の高齢労働者の健康や体力の状況を踏まえた措置
脳・心臓疾患が起こる確率は加齢にしたがって徐々に増加するとされており、高齢労働者については基礎疾患の罹患状況を踏まえ、労働時間の短縮や深夜業の回数の減少、作業の転換等の措置を講じます



※考慮事項※

- ・業務の軽減等の就業上の措置を実施する場合は、高齢労働者に状況を確認して、十分な話し合いを通じて本人の了解が得られるよう努めます

- (2) 高齢労働者の状況に応じた業務の提供

健康や体力の状況は高齢になるほど個人差が拡大するとされており、個々の労働者の状況に応じ、安全と健康の点で適合する業務をマッチングさせるよう努めます

※考慮事項※

- ・疾病を抱えながら働き続けることを希望する高齢者の治療と仕事の両立を考慮します
- ・ワークシェアリングで健康や体力の状況や働き方のニーズに対応することも考えられます

- (3) 心身両面にわたる健康保持増進措置

- ・「事業場における労働者の健康保持増進のための指針」や「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づく取組に努めます
- ・集団と個々の高齢労働者を対象として身体機能の維持向上に取り組むよう努めます
- ・以下の例を参考に、事業場の実情に応じた優先順位をつけて取り組みます

↓対策の例↓

- ・フレイルやロコモティブシンドロームの予防を意識した健康づくり活動を実施します
- ・体力等の低下した高齢労働者に、身体機能の維持向上の支援を行うよう努めます
例えば、運動する時間や場所への配慮、トレーニング機器の配置等の支援を考えます
- ・健康経営の観点や、コラボヘルスの観点から健康づくりに取り組みます

転倒・腰痛防止視聴覚教材
～転倒・腰痛予防！「いきいき健康体操」～(動画)

他



5 安全衛生教育

- (1) 高齢労働者に対する教育

- ・高齢者対象の教育では、作業内容とリスクについて理解させるため、時間をかけ、写真や図、映像等の文字以外の情報も活用します
- ・再雇用や再就職等により経験のない業種、業務に従事する場合、特に丁寧な教育訓練を行います

※考慮事項※

- ・身体機能の低下によるリスクを自覚し、体力維持や生活習慣の改善の必要性を理解することが重要です
- ・サービス業に多い軽作業や危険と感じられない作業でも、災害に至る可能性があります
- ・勤務シフト等から集合研修が困難な事業場では、視聴覚教材を活用した教育も有効です

- (2) 管理監督者等に対する教育

- ・教育を行う者や管理監督者、共に働く労働者に対しても、高齢労働者に特有の特徴と対策についての教育を行うよう努めます

ガイドラインの概要

労働者に求められる事項

生涯にわたり健康で長く活躍できるようにするために、一人ひとりの労働者は、事業者が実施する取組に協力するとともに、**自己の健康を守るための努力の重要性を理解し、自らの健康づくりに積極的に取り組む**ことが必要です。

個々の労働者が、**自らの身体機能の変化が労働災害リスクにつながり得ることを理解し**、労使の協力の下、以下の取組を実情に応じて進めてください。

- ・自らの身体機能や健康状況を客観的に把握し、健康や体力の維持管理に努めます
- ・法定の定期健康診断を必ず受けるとともに、法定の健康診断の対象とならない場合には、地域保健や保険者が行う特定健康診査等を受けるようにします
- ・体力チェック等に参加し、自身の体力の水準を確認します
- ・日ごろからストレッチや軽いスクワット運動等を取り入れ、基礎的体力の維持に取り組みます
- ・適正体重の維持、栄養バランスの良い食事等、食習慣や食行動の改善に取り組みます



ストレッチの例

「介護業務で働く人のための腰痛予防のポイントとエクササイズ」より

好事例を参考にしましょう

取組事例を参考にして、自らの事業場の課題と対策を検討してください

▶ 厚生労働省ホームページ

(先進企業) <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000156041.html>

(製造業) <https://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/1003-2.html>

▶ 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構ホームページ

<http://www.jeed.or.jp/elderly/data/statistics.html>

国による支援等（令和2年度）

エイジフレンドリー補助金（新設）

高齢者が安心して安全に働くための職場環境の整備等に要する費用を補助します 是非ご活用ください

※事業場規模、高年齢労働者の雇用状況等を審査の上、交付決定（全ての申請者に交付されるものではありません）

1 対象者 60歳以上の高年齢労働者を雇用する中小企業等の事業者

2 補助額 補助率2分の1、上限100万円

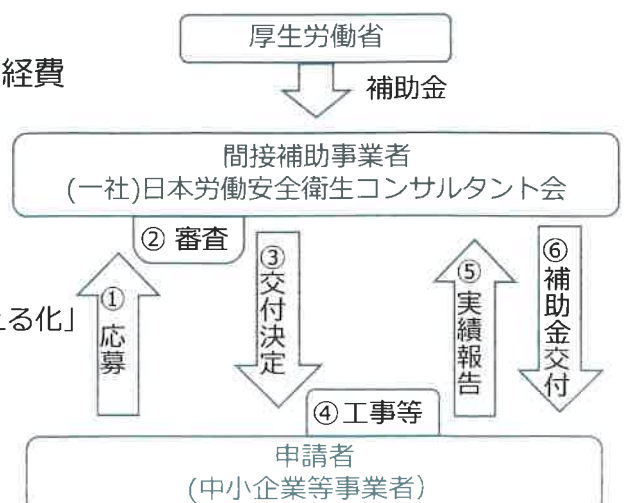
3 対象経費

高年齢労働者の労働災害防止のための措置に係る経費

【措置の例】

- 高齢者に優しい施設整備や機械設備の導入等
 - ・作業場内の段差解消
 - ・床や通路の滑り防止
 - ・リフト機器等の導入による人力取扱重量の抑制
- 健康確保のための取組
 - ・高年齢労働者の体力低下について気づきを促す取組
 - ・ウェアラブル端末を活用したバイタルデータの「見える化」
- 高年齢者の特性に配慮した安全衛生教育

※補助の具体的な条件、応募手続き等の詳細は、厚生労働省ホームページを確認してください。



高齢者の安全衛生対策について個別に相談したいときは

中小規模事業場 安全衛生サポート事業 個別支援

労働災害防止団体が中小規模事業場に対して、安全衛生に関する知識・経験豊富な専門職員を派遣して、高齢労働者対策を含めた安全衛生活動支援を無料で行います。

現場確認

専門職員が2時間程度で**現場確認**と**ヒアリング**を行い、事業場の安全衛生管理状況の現状を把握します。

費用は
無料です！



結果報告

専門職員が現場確認の結果を踏まえた**アドバイス**を行います。

- ◆ **転倒、腰痛、墜落・転落災害の予防**のアドバイスを行います。
- ◆ **現場巡視における目の付け所**のアドバイスを行います。
- ◆ 災害の芽となる「危険源」を見つけ、**リスク低減の具体的方法**をお伝えします。

労働災害防止団体 問い合わせ先

- ・中央労働災害防止協会
- ・建設業労働災害防止協会
- ・陸上貨物運送事業労働災害防止協会
- ・林業・木材製造業労働災害防止協会
- ・港湾貨物運送事業労働災害防止協会

- 技術支援部業務調整課
- 技術管理部指導課
- 技術管理部
- 教育支援課
- 技術管理部

- 03-3452-6366 (製造業等関係)
- 03-3453-0464 (建設業関係)
- 03-3455-3857 (陸上貨物運送事業関係)
- 03-3452-4981 (林業・木材製造業関係)
- 03-3452-7201 (港湾貨物運送事業関係)

労働安全コンサルタント・労働衛生コンサルタントによる安全衛生診断

労働安全コンサルタント・労働衛生コンサルタントは、厚生労働大臣が認めた労働安全・労働衛生のスペシャリストです。事業者の求めに応じて事業場の安全衛生診断等を行います。

【問い合わせ先】 一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会
電話：03-3453-7935 ホームページ：<https://www.jashcon.or.jp/contents/>

有料

高齢者の戦力化のための条件整備について個別に相談したいときは

高齢者戦力化のための条件整備について
65歳超雇用推進プランナー
高齢者雇用アドバイザーにご相談ください！



65歳超雇用推進プランナー・高齢者雇用アドバイザーは、全国のハローワークと連携して、企業の高齢者雇用促進に向けた取組を支援しています！

65歳超雇用推進プランナー・
高齢者雇用アドバイザーとは

高齢者の雇用に関する専門的知識や経験を持っている外部の専門家です。

- 企業の人事労務管理等の諸問題の解決に取り組んだことのある人事労務管理担当経験者
- 経営コンサルタント
- 社会保険労務士
- 中小企業診断士
- 学識経験者
- など



相談・助言

無料

各企業の実情に応じて、以下の項目に対する専門的かつ技術的な**相談・助言**を行っています。

- 人事管理制度の整備に関する事
- 賃金、退職金制度の整備に関する事
- 職場の改善、職域開発に関する事
- 能力開発に関する事
- 健康管理に関する事
- その他高齢者等の雇用問題に関する事

機構HPはこちら



- お近くのお問合せ先は、高齢・障害・求職者雇用支援機構のホームページ (<http://www.jeed.or.jp>) からご覧いただけます。
- 「65歳超雇用推進事例サイト (<https://www.elder.jeed.or.jp/>)」により、65歳を超える人事制度を導入した企業や健康管理・職場の改善等に取り組む企業事例をホームページにて公開しています。

高齢労働者の労働災害防止対策についての情報は
[厚生労働省ホームページ](#)に掲載しています

